

令和6年度 第3回番組審議会

◇日 時 2024年12月12日（木）10時40分～12時00分

◇場 所 テレビトクシマ 本館5階（徳島市新蔵町1丁目17）

◇出席者 ○委員（7名）

○ケーブルテレビ徳島（3名）

会 長 吉田 恵子 氏

代表取締役社長 梅田 真司

副会長 丸茂 晃裕 氏

コンテンツ事業部 部長 中山 哲也

委 員 峪口 有香子 氏

コンテンツ事業部 担当部長（事務局）

委 員 上野 由佳 氏

湯村 修平

委 員 松島 真由美 氏

委 員 加守 寛士 氏

委 員 上田 浩之 氏

◇番組に対するご意見（一部抜粋）

① 行ってみて「みんなで行こう！徳島 NEW SPORTS」

- ・気になっていたスポットだったので楽しく拝見させてもらった。施設の魅力がわかりやすく紹介されており、全体像やどのように楽しめば良いのか紹介されていて良かった。
- ・県内にこのような施設が出来ていることを知らなかった。一度体験しに行ってみたいと思う。わかりやすく楽しそうにしている見やすかった。
- ・樹脂加工のスケートリンクやそれ以外にも2階にキッチンやクラフトスタジオが併設されているということなので、見学に行ってみたいと思う。オブスタクルスポーツも初めて聞く名前映像を見て興味が沸いたので行ってみたいと思う。
- ・初めて見る施設だった。市内にこんな立派な施設が出来ているのは知らなかった。吉野川市の施設は確かCATVで全日本選手権の放送をしていたのを見て、競技として面白いと思った。また大会が行われるのであれば継続して放送して欲しい。
- ・沖洲のスケートリンクは自分たちで自由に楽しむだけでなく、講座やレッスンも開かれているのでその辺りも紹介してもらえたら良かった。
- ・2箇所とも現段階で徳島にしかない施設だと思うので、たくさんの人に知られる機会が出来て良かったと思う。出演されていた方が真剣に取り組まれている姿が印象的だった。
- ・お客さんが来て賑わっている様子が映っていれば良いアピールになったと思う。
- ・沖洲の施設は出来たことを知っていたが、吉野川市の施設はこんな場所があることを知らなかった。子供と一緒に行ってみたい。
- ・[当社]全日本選手権の中継を行った際はお客さんもたくさん居て賑わっていた。海外から来られている人も居て、（施設があることが）周知されていると思った。この中継は地元のCATVを中心に県下のCATV局にて制作したものだが、次回以降も開催されれば中継をしたいと言っていたのでその際にはお届け出来ればと思う。

② 「遡」 神山まるごと高専学生制作作品

- ・高専生が撮った映像という背景を思うととても才能が溢れていると感じると同時に、神山の自然と出演している演者さんのナチュラルさがとてもよく融合されていた。静止画としての美しさも感じた。これからも良い作品をたくさん作って欲しいと思う。
- ・最初は何を表したいのかよく理解出来ず、音声が少ないのも相まって情報が少ないと感じた。タイトルが「特別な場所」とあったのでそういった場所を撮影したい、見つけたという意図なのかと思った。
- ・番組の趣旨をいろいろ想像しながら見ていた。タイトルの「遡」は写真集の軌跡を辿り、いろんな風景と巡り会うというコンセプトだったと理解した。
- ・高専生が撮った映像として、カメラワークの凄さを感じた。相当美的センスがあると感じる。高専生にしては凄い。
- ・コンセプトがわからなかったのが、なぜテレビトクシマがこの番組に関わったのか、どういった内容なのかを理解しないまま番組を視聴した。具体的に教育の一環だったのか、シチュエーションの撮影の仕方を協力したのか、どのように関わったのかを予め知りたかった。
- ・映画祭の趣旨として、今後徳島から映像制作者を輩出するという事で地元CATVが制作に関わるのはとても良い取り組みだと思う。
- ・「遡」という漢字が気になって調べてみたが、「巡り会う、出会う」という意味があるということで、皆さんの仰る通りお父さんの写真集を通じてお父さんの見た景色を訪ねて行くということを感じたが、それだけではなく訪れた先で出会う瞬間を大切にしており、ふとした日常の中にも逃せない瞬間があるということが言いたいのではないかと感じた。
- ・とても毛色の違う番組を視聴し、感想がとても難しい番組だと思った。非常に映像がきれいだと思ったが、見ているこちらが素人なのもあってこの映像のメッセージを受け取るのが難しかった。監督の才能はとても表れている映像だと思うので、そこにストーリー性が加わればわかりやすい番組になったと思う。
- ・[当社] 昨年は開催された神山映画祭が今年に行われなかったということで、昨年神山映画祭の新人賞を取った監督が今年も映像を制作したいという希望があり、神山高専に通学している現役の高専生が撮影をしたもので、当社はこの映像を作る協力を行ったという経緯である。制作をしている途中で本人も撮りたい内容が変わって来たこともあり、その辺りに苦慮したようだ。また、この番組を制作している高専生を題材として当社はドキュメンタリーを制作しており、次回ご視聴の上ご意見をいただきたいと思いますと思っている。

以上